

## MMM 2019に参加して



目で見ると  
海外論文発表

徳田 将志\*

Participation report of MMM 2019

Key Words : Mesoscopic physics, Topological superconductor, Spintronics

### <参加会議名>

64th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials (MMM 2019)

<開催場所>アメリカ合衆国ネバダ州ラスベガス

<渡航期間>2019年11月3日~11月10日

<発表タイトル>

Spin transport measurements in metallic Bi/Ni nanowires

私は、2019年11月4日~11月9日にアメリカのラスベガスで開催された国際会議、64th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials (MMM 2019)に参加しました。本会議は、磁性に関わる現象や磁性物質を対象にした研究成果の報告を目的とし、物理学・工学・生物学などの様々な分野の発表が行われます。およそ2000人の規模で開催され、1955年から64年間続く伝統ある国際会議です。

私は、低温で電気抵抗がゼロになる超伝導体と呼ばれる物質、中でも既存の理論ではその機構が説明できない不思議な超伝導体において、電子のもつ磁気的な性質であるスピンの振る舞いを明らかにした研究成果 [1] を口頭発表で報告しました。発表後には海外の研究者達と私の研究について議論し、意見交換することができました。また、情報収集のために他のセッションやポスター発表の会場にも足を運び、積極的に研究者の方々と交流することで、世界

の研究の動向を知ることができました。

学会の場以外でも英語で話す機会が多く、空港やレストランなどでの現地の方々とのコミュニケーションを通して、英語を話すことの重要性を実感しました。また、チップを払うというような、日本には無いアメリカの文化や習慣は、海外経験の浅い私にとって新鮮で、日本とアメリカとの違いを見つける楽しさがありました。

本国際会議に参加したことで知識を広げることができたことはもちろん、多くの方々と知り合えたことと思います。研究以外の面でも、実際に海外に行かなければ得られない経験を積むことができ、私自身の視野が広がったと感じています。

最後になりましたが、本会議へ参加するにあたりご支援をいただきました生産技術振興協会と、大阪大学スピントロニクス学術連携研究教育センターの皆様にお礼申し上げます。

[1] M. Tokuda *et al.*, Appl. Phys. Express 12, 053005 (2019).



\* Masashi TOKUDA

1996年1月生まれ  
大阪市立大学 理学部 物理学科 卒業  
(2018年)

現在、大阪大学大学院 理学研究科  
物理学専攻 量子多体制御グループ  
博士前期課程2年 学士(理学)  
研究分野 / 超伝導スピントロニクス

TEL : 06-6805-5371

FAX : 06-6805-5371

E-mail : tokuda@meso.phys.sci.osaka-u.ac.jp



口頭発表の様子



ポスター会場



海外の研究者との交流①



海外の研究者との交流②



会場のホテル Rio



夜のラスベガスの街並